

# 「健康に不安・・・」だからこそ入りたい方のための「引受基準緩和型医療保険」

ファイナンシャルプランナー 加藤梨里

私たちは長い人生の中で、予期せずして病気やけがなどのアクシデントに見舞われる恐れがあります。このときにかかる医療費などの出費に備えるのが医療保険ですが、一般的な医療保険は、一度病気にかかると新たに加入するときに条件が付く、ないしは契約ができないこともあります。

近年、生活習慣病などの慢性疾患が増え、一度病気になった人が将来の持病の悪化による再入院や手術に備えて、より手厚い保障を備えておきたいというニーズが高まってきました。こうしたニーズに応える保険の一つに「引受基準緩和型保険」があります。

## ■病気によって失う生命のロス

「病気」と一言と言っても、その種類によって私たちの命や暮らしに与えるダメージは大きく異なります。図1は、病気によって失う生命の損失を、死亡が早まることにより失われる生命の「寿命ロス」と、病気のために健康でない状態で生活することで失われる生命の「健康ロス」によって表したものです。

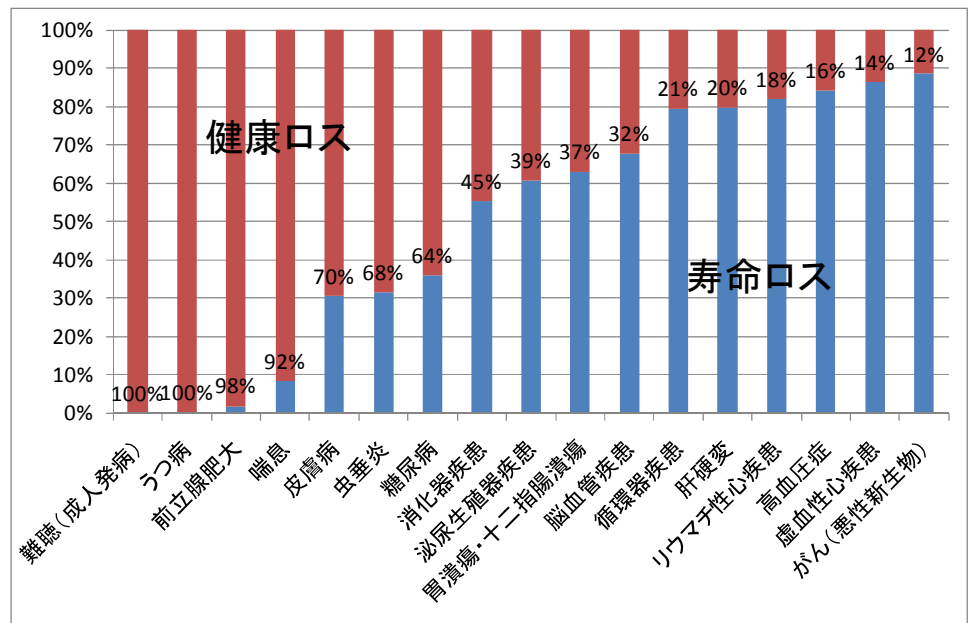


図1. 疾患別「健康ロス」「寿命ロス」の構成割合 (世界保健機関 (WHO) ” Disease and injury regional estimates for 2004” より筆者作成)

うつ病や喘息、糖尿病などは、それ自体は命に関する危険はありませんが、通院や投薬が必要で健康上の問題が大きい病気です。また、がん、心筋梗塞、脳血管疾患など寿命ロスの大きい病気も、近年は生存率が高まっており、長年にわたって持病と付き合いながら生活する人も少なくありません。引受基準緩和型保険は、告知項目を簡素化して引受基準を緩和し、このような方でも医療保障を確保できるようにしています。

## ■引受基準緩和型保険の特徴

引受基準緩和型保険は「限定告知型」とも呼ばれ、過去3カ月、2年、5年間の入院、手術、通院、投薬などの状況について、会社指定の3~6項目の告知事項すべてに当てはまらなければ持病があっても加入することができます。加入前にすでにかかっていた病気が悪化して入院した場合や、手術を受けた場合にも保障されます。

保障期間や保障額も一般の医療保険と同様に設定することができるうえ、最近の特約も充実しつつあります。10月2日から発売されるオリックス生命のCURE Supportは、先進医療を受けた時の技術料を保障する特約を付けることができます。

## ■引受基準緩和型保険の注意点

引受基準緩和型保険は、簡単な告知で加入できる半面、以下のようなデメリットもあります。

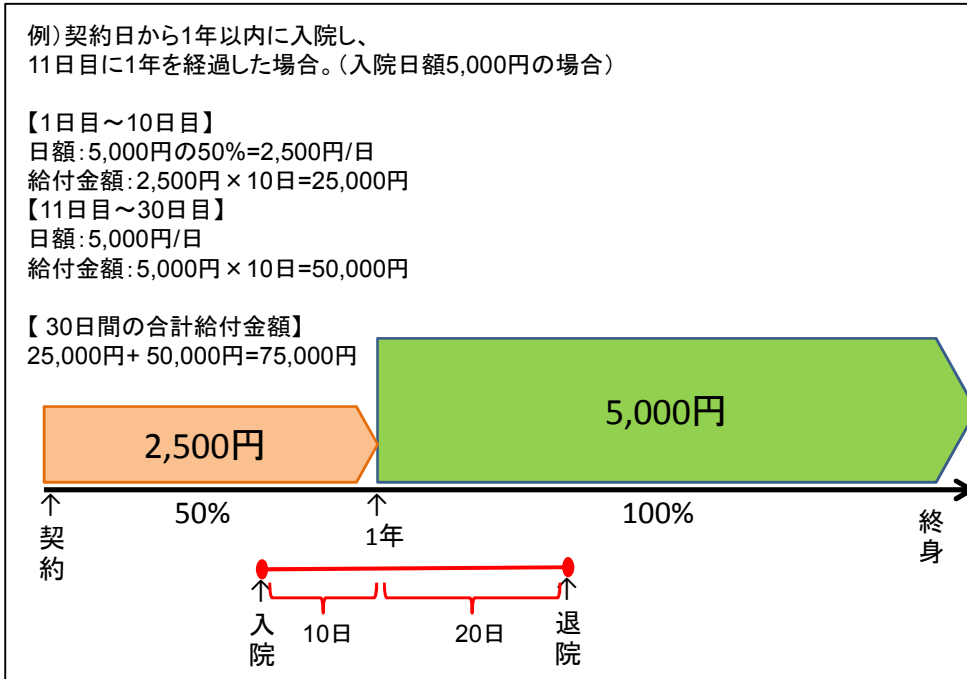
—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2010 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

(1) 契約から1年以内の給付金は半額保障

契約日から1年以内に入院や手術をした場合には、入院給付金・手術給付金・その他給付金が50%削減されます。入院中に1年を経過した際には、図2のように経過した時点で満額が給付されます。

図2. 引受基準緩和型保険の給付のしくみ



(2) 高い保険料水準

通常の保険商品に比べて保険料が高く、特に若い人にとっては割高です。30歳男性では一般の契約に比べて2倍程にもなります。ここでは、最近発売されたアフラックとオリックス生命の商品を例として挙げていますが、他社でも同様の傾向が見られます。

表1. 一般の医療保険と引受基準緩和型保険の比較 (1回の入院の支払い限度日数60日の場合)

	新EVER*1 (スタンダードプラン)	新やさしいEVER	CURE*1	CURE Support*2
会社	アメリカンファ	アメリカンファ	オリックス生命	オリックス生命
保険種類	一般向け医療保	引受基準緩和型	一般向け医療保	引受基準緩和型
保険期間	終身	終身	終身	終身
保険料払込期間	終身払い、60歳払済、60歳以降半額		終身払い、60歳払済、65歳払済	
契約年齢	0歳～満80歳	満30歳～満80歳	6歳～70歳	20歳～80歳
保険料例	男性 女性	男性 女性	男性 女性	男性 女性
30歳	1,640 1,685	3,995 3,560	1,750 1,700	3,328 3,363
40歳	2,185 1,985	4,570 3,950	2,390 2,070	4,073 3,293
50歳	3,095 2,610	5,355 4,730	3,455 2,815	5,223 3,863
60歳	4,575 3,700	6,705 6,030	5,075 4,030	6,708 4,978
70歳	6,935 5,485	8,990 7,970	7,365 5,960	8,728 6,678

\*1: 終身払いの保険料を提示、\*2: オリックス生命のCURE, CURE Supportは先進医療特約付きの保険料

個々のケースにより条件は異なりますが、持病があっても、健康状態についてより詳細な告知をすることによって一般の保険に契約できる場合もあります。まずは被保険者の状況を、加入を検討されている会社に伝えて引き受けてもらえる保険料や保障内容を確認してみると良いでしょう。

■引受基準緩和型保険選びのポイント

一般の医療保険で加入できるものがない場合には、引受基準緩和型保険を検討することになりますが、選ぶ際には、保険会社によってさまざまに異なる引受基準を詳細に比較することが大切です。以下のポイントを中心にチェックすると良いでしょう。

①告知が必要な病気の種類

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

②病気にかかってから保険に契約するまでの経過期間

③上記①、②について「入院」、「手術」、「検査」、「診察」、「治療」、「投薬」のどれを要件としているか

高齢化と医療技術の進歩に伴って、持病を持つ人が増えていくに従って、引受基準緩和型保険は今後より開発が進むものと思われます。病気の再発や悪化は決して望ましいことではありませんが、万が一の際の経済的な負担を和らげることによって、安心して日々を過ごすための手段として考えてみると良いかもしれません。

※本コラムは商品について単純に解説、比較したものであり、商品の優劣を表示するものではありません。個別の商品内容の詳細については、保険会社が発行しているパンフレットや「ご契約のしおり・約款」をご確認ください。

※本コラムは情報提供のみを目的としています。勧誘を目的としているものではありませんので、契約に関する最終決定はご自身の判断にてお願いいたします。

※掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、サイト内情報を利用した結果に対しての責任は負いかねますのでご了承ください。